巻頭言

比較日本学教育研究センター長
古　瀬　奈津子

2012年度も本センターでは、第14回国際日本学シンポジウムと第7回国際日本学コンソーシアムを開催することができました。第14回国際日本学シンポジウムの方は、「文字・表現・交流の国際日本学」を統一テーマとして、セッションⅠでは「発見！お茶の水女子大学の広開土王碑拓本」、セッションⅡでは「西洋に響く能―移行・翻訳・解釈―」のシンポジウムを行いました。

「発見！お茶の水女子大学の広開土王碑拓本」では、本学歴史資料館所蔵の広開土王碑拓本を素材にして、専門の研究者の方々に議論していただきました。本学所蔵の広開土王碑拓本はその所在がほとんど知られておらず、シンポジウムに先立ち、専門の方々に史料調査をしていただきました。シンポジウム当日には、歴史資料館により本学所蔵の広開土王碑拓本の第Ⅰ面が展示され、多くの参観者がありました。シンポジウムを共催してくださいました歴史資料館に深く感謝いたします。本来はお土産として教材となるべく満州から持ち帰られたこの拓本が、現在では文化財として評価されるようになったという歴史の不思議を感じずにはいられません。

セッションⅡは、日本の能が西欧にどのように伝わり受容されているかを、海外からの参加者を交えて、具体的な事例に即して現在進行形で議論したもので、これこそ、「日本文化の国際発信」という本センターの使命を具現化したシンポジウムであったと言えましょう。

一方、第7回国際日本学コンソーシアムは、「多文化共生社会に向けて」を統一テーマに、日本文化部会、日本文学部会、日本語学・日本語教育学部会、全体会において、例年より海外からの参加者が少なかったものの、活発に発表や討論が行われました。

また、今年から大学院ＧＰ時代の副専攻「日本文化論」を再編して実施することになり、センターが担当しています。副専攻の科目のうち、「国際日本文化論」では、履修した大学院生たちに国際日本学シンポジウムや国際日本学コンソーシアムに参加するだけではなく、その企画・運営などにも関与してもらいました。

今年も本センターは特別経費「女性リーダーを創出する国際拠点の形成」プログラムをはじめ、歴史資料館や比較歴史学コースの支援により活動することができました。厚く御礼申し上げます。毎年のことながら、活動のための資金的基盤についても考えていかなくてはならないと思います。

近年、新しく国際日本学領域に加わり、センターの活動に参加してくださる若手の先生方が増えてきております。今までの蓄積の上に、国際日本学の新たな方向性を見出す時期にきていると思います。みなさまにはこれまで以上のご支援をお願い申し上げます。

2013年3月